和泉式部像の変貌
―その好色性をめぐって―

文化創造研究科 国文学領域
一八〇〇一ＣＪＭ 青　木　野乃花

修士論文要旨

『和泉式部日記』には、和泉式部と帥宮（敦道親王）との約一〇ヶ月に渡る恋愛模様が、和泉式部の立場を基本として描かれている。また同時代に成立した『大鏡』、『栄花物語』にも和泉式部と帥宮の関係に関する記述はあるが、これらは帥宮と和泉式部との関係を不祥事として扱っている。さらに、この件は『古本説話集』「六　帥宮通和泉式部給事」と『三国伝記』「和泉式部詠歌の事」とに記述されている。しかもこの二つの説話は、『和泉式部日記』と共通する話題をあげながらも場面設定などが大きく異なっている。

一般にいわれる和泉式部の〈好色性〉という観点から、『和泉式部日記』、『紫式部日記』、『大鏡』、『栄花物語』そして、『古本説話集』、『三国伝記』それぞれにみられる和泉式部像を明らかにするとともに、その変化の要因・理由について考察した。

第一章では、『和泉式部日記』における和泉式部像を「和泉式部自身」、「周囲の噂」及び「帥宮」の三つの視線を導入し確認した。『和泉式部日記』での和泉式部は、感情に翻弄されることにより表れる消極的な〈好色性〉と、多くの男性と関係を持つ積極的な〈好色性〉を持つ人物としてかかれていた。

第二章では、同時代評として『紫式部日記』、『栄花物語』、『大鏡』の三作品における和泉式部像を考察した。皇族と恋愛関係になるような和泉式部の自由な振舞いなどから、積極的な〈好色性〉が表れていることを明らかにした。

第三章では、後代説話である『古本説話集』「一　帥宮通和泉式部給事」と『三国伝記』平仮名本「和泉式部詠歌の事」における和泉式部像を考察した。『古本説話集』は、『和泉式部日記』からの引用を巧みに使いながら、積極的な〈好色性〉を持つ女性像を意図的に作り上げるという作者の意図を明らかにした。『三国伝記』は、和歌をつなぎ合わせていくことで恋多き女性として和泉式部像を作り上げていた。

第四章では、第三章までの人物像の変貌の理由を考察していった。説話という文学形態や和歌から和泉式部像が形成されている点に原因を見出した。